

[第三回日本言語文化学会発表要旨]

日韓・韓日辞書における日韓同形異義漢語の研究

崔 銀 珠

(1991.12.14発表)

1 はじめに

国際文化フォーラムの行なった調査によると、韓国は学習者数や講師の数で世界最大の日本語学習国である。このような韓国人の日本語学習の際に絶大なる役割を担うのが日韓・韓日辞書である。本稿では日本語と韓国語の語彙体系において高い比率を占める漢語の問題に注目し、同形異義漢語、つまり語形は同じであるが語義は異なる漢語が日韓・韓日辞書でどのように扱われているか、その現状と問題点を探ることを主眼としている。

2 調査の対象と方法

- ① 3種の日本語教科書における字音読みの漢語1882語（『中国語と対応する漢語』文化庁）について日韓それぞれの国語辞書や新聞等を通じて意味・用法をしらべた結果、およそ6%の語は意味が異なったり、ずれていることがわかった。
- ② 日韓辞書3種（民衆書林、東亜出版社、金星教科書）と韓日辞書2種（民衆書林、角川書店）において、これらの同形異義漢語の意味・用法の違いがどのように反映されているかを調べた。
- ③ 比較的使用頻度の高い2字漢語について○（良い）△（問題有り）の評価を試みた。

*評価の基準

1、語釈は適切か。

各国語自体の意味把握は正確であるか。ニュアンスの違いや現代における意味変化は的確に反映されているか。

2、日韓の同形異義漢語に対する意味の相違の認識度（誤解や混乱を招

く直訳は避けているか。誤用を防げる用例や註を採用しているか)
 3、語釈の配列順（現在の意味、使用頻度の高いものを優先すべき）
 なお、③の評価表はあくまでも日韓・韓日辞書の現状を概観することに重きを置いたものであり、現状の一端を垣間見ることが出来るようにしたものである。より詳細かつ厳密な評価、分析、更に理想とすべきモデルの提示については今後の課題としたい。

J > K（日本語の意味範囲の方が広いもの）

	民衆日韓	東亜日韓	金星日韓	民衆韓日	角川韓日
意見	○	○	○	○	○
出席	△	△	○	△	△
欠席	△	○	△	△	△
指令	△	△	○	△	○
婦人	○	○	○	△	○
会話	△	△	△	△	△
観念	○	○	○	○	○
因縁	○	○	○	○	○
家内	○	○	○	△	○
得意	○	△	○	○	○
土地	○	○	○	○	○
上品	○	△	○	△	△
下品	△	○	○	△	△
是非	○	○	○	○	○
文語	○	○	○	○	○
始末	○	○	○	○	○
多分	○	○	○	○	○
義理	○	○	○	○	△
結構	○	○	○	○	○

J ≠ K (日韓の意味が異なるもの)

	民衆日韓	東亜日韓	金星日韓	民衆韓日	角川韓日
自慢	○	○	○	△	△
議論	△	○	○	△	○
砂糖	○	○	△	△	△
女中	○	○	○	○	○
迷惑	○	○	○	○	○
工夫	○	○	○	○	○
丈夫	○	△	○	○	○
洋服	△	△	△	○	△
一向	○	△	○	○	△
大木	○	○	○	○	○
愚痴	○	△	○	△	△
気味	○	○	△	○	○
懸命	○	○	○	なし	△
御殿	○	○	○	なし	△
順々	○	○	○	○	△
勉強	○	○	○	なし	○


J < K (韓国語の意味範囲のほうが広いもの)

	民衆日韓	東亜日韓	金星日韓	民衆韓日	角川韓日
曖昧	○	○	○	△	△
時勢	○	△	○	○	○
汽車	○	○	○	△	○
人事	○	○	○	○	○
非常	○	○	○	△	○
模様	○	○	○	△	○

3 日韓・韓日辞書における同形異義漢語の取り扱いの現状と問題点

まず、本調査を通じて全般的にいえることは、日韓辞書に比べて韓日辞書の方により多くの問題点があったということである。日韓辞書の△の数の平均が7、韓日辞書の△の数の平均が15.5であったという事実は韓日辞書の不備をものがたる好例である。しかし韓日辞書の不備をもたらした一要因として、韓日辞書編纂の際に母体となった韓国の国語辞書自体の問題点を指摘せざるをえないことも事実である。「洋服」「砂糖」「会話」等の場合、韓国の国語辞書において既に現代韓国語の意味・用法が正確に反映されていなかった。

第二、最も問題の多かったのは、意味の拡大、縮小などの変化によって語義や語感にずれが生じた語の場合であった。中でも特に、

ようふく〔洋服〕yohuku  양복 (『民衆エッセンス日韓辞典』)

양복ヤンボク[?]janbo^k (洋服)  洋服、服 (『朝鮮語大辞典』)

のように、日→韓、韓→日のそれぞれの対訳語として同形の漢語をあてるのに留まっている過ちが目についた。語義に相違点やずれが見られるにもかかわらず、同形の漢語を充てるだけでは学習者に誤用と誤解、混乱を招くことは必至のことであろう。

第三、日韓それぞれの国語辞書の語釈の上では意味・用法に差異が認められたが、日韓・韓日辞書に反映されていない場合があった。

第四、文法的な働きが異なっていたり〔意見する、結構、始末する等〕、日本語の漢語の読み方が二通り以上あることによって意味にずれが生じた語の場合〔工夫(くふう・こうふ)等〕は、その違いが大体においてよく反映されていた。

4 今後のありかた

①辞書編纂者はまず、日本語・韓国語のそれぞれについて正確な意味・用法は言うまでもなく、語感(ニュアンス)や意味の強さの度合い、意味範囲の変化等について熟知することが求められる。そのためには、まず、各国の国語辞典を充実したものにしなければならない。しかし、場合によっては、国語辞典の語釈だけにとらわれず、編纂者自ら意味・

用法の歴史的変遷過程を探ったり、現代の意味・用法を実例を通じて検証するといった積極的な姿勢が求められる。

②漢語の語釈として安易に同形の漢語を充てている傾向が見られるが同形異義漢語場合、当該漢語を語釈として充てることによって却って誤解、混乱を招く恐れがある。特に、意味・用法にずれが見られる同形漢語のばあい、最適の対訳語を模索し、誤用を防ぐことのできる用例、註などを取り入れることが求められる。

③多義語で第一義と第二義の使用頻度の格差が著しく大きい場合などは効果的な言語教育という立場から第二義を排除することも大いに検討されるべきである。ちなみに岩波国語辞書の場合、上品の語釈は「品がよいこと。いやしさがなく気品が高いこと」とあり、第二義は取り上げていない。日韓・韓日辞書においてもこのような配慮は大きく効を奏するものと思われる。

④口語としての意味や文語としての意味が併存するなど、多義語の場合の語釈の配列方法として、言語教育を第一の目的とする対訳辞書においては、意味の歴史的変遷順よりは現在の使用頻度順の方が望ましい。

*参考辞典

- (1)日本の国語辞典—大辞林、三省堂、1988、(22万語)
 広辞苑第4版、岩波書店、1991、(22万語)
 学研国語大辞典第2版、学習研究社、1992、(10万)
- (2)韓国の国語辞典—クン辞典、ウルユ文化社、1957 (164,125語)
 チョソンマル辞典、科学院、1960 (17万語)
 国語大辞典、民衆書館、1961 (22万5千語)
 国語大辞典、金星出版社、1991、(40万語)
- (3)日韓辞典— ニューエース日韓辞典、金星教科書、1987 (8万語)
 民衆エッセンス日韓辞典、民衆書林、1990
 東亜プライム日韓辞典、東亜出版社、1990 (10万語)
- (4)韓日辞典— 民衆エッセンス韓日辞典、民衆書林、1983
 朝鮮語大辞典、角川書店、1986 (21万語)

〈お茶大 人間文化研究科(博士課程) 1年〉